

ロチェスター留学記

Department of Cardiovascular Medicine

Mayo Clinic

小保方 優

(メイヨークリニック心臓血管部門)

2016年4月より米国ミネソタ州ロチェスターにある Mayo Clinic, Department of Cardiovascular Medicine に臨床研究留学をしております。Mayo Clinic はアメリカ病院ランキング1位に評価されている超有名病院で、人口11万人のロチェスターにおいて3万人以上の職員を抱え、ダウンタウンの多くは Mayo Clinic 関連の施設で埋め尽くされています。

私の指導者である Dr. Barry Borlaug は、左室駆出率の保たれた心不全 (Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: HFpEF) のスペシャリストの一人で、右心カテーテルを使ってエルゴメーター運動負荷中の HFpEF 患者の血行動態にアプローチしています。レジデントの頃に HFpEF の病態の不思議さとその病態に迫る Dr. Borlaug の研究に魅了され、いつか Borlaug 先生のもとで研究したいと思ったのが留学のきっかけです。

留学して3年経ちますが、期待した以上の多くのプロジェクトに関わらせてもらっています。既存のデータベースを用いた後ろ向き研究をベースに、多施設共同研究のサブ解析、前向き試験の運動負荷心エコーの実施と読影、総説や Editorial の執筆、トップジャーナルの査読など、おそらく通常のラボとは比較にならない質と量の仕事をさせてもらっていると自負しています。この3年間で、HFpEF に関する最新の知識や今後研究が必要な knowledge gaps、血行動態の考え方、論文を書く上でのデータの捉え方やプレゼンテーションの仕方、そもそもなぜ研究をしているのかを学ぶことができました。これは日本にいたままでは絶対にできなかった経験であり、私にとって単なる論文の数以上の貴重な経験です。

海外留学によって得られたのは研究面だけではなく、家族との時間、Mayo Clinic に留学している他の日本人フェローとの家族ぐるみの付き合い、学会毎の循環器フェローとの交流、アメリカの生活・文化に触れたこと、アメリカ国内旅行（特に国立公園）にたくさん行けたことなど、数えたらきりがありません。特に、子供と接する時間が増えたおかげで、その成長に寄り添えたことが一番大きいと感じています。また、日本の生活と比べて経済的に楽ではなかった中で、3年間家族をサポートしてくれただけでなく、たくさんの国内旅行を企画して米国生活に彩りを与えてくれた妻には感謝しきれません。

早いもので5カ月後に帰国が迫っており、日本に帰ってから限られた時間、症例数、研究費、後輩フェローの中でどのように研究を発展させていくかを考えています。留学中の好環境とのギャップに戸惑うことは容易に想像できますが、何とか一歩ずつ努力していき、日本ひいてはアジアの HFpEF 診療の最前線に立ちたいと願っています。

最後に、本留学に際して多大なるご支援をしてくださいました上原記念生命科学財団、ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(2019. 4. 1受領)



Mayo Clinic, St. Marys Hospital

ダウンタウンから徒歩5-10分程度に位置するレトロな雰囲気の大病院で、私の所属する Catheteriatoin laboratory があります